

地球上最古の陸生植物

小 泉 源 一

一九一七年 R. KIDSTON, W. H. LANG 兩氏の Scotland Rhynie 泥盆紀の古松葉蘭類 (Psilophytales) の詳細にして興味多き研究は、泥盆紀植物研究の大なる刺戟となり、其後世界各地に於ける泥盆紀化石植物は大なる注意を以て研究せらるゝに到れり。

初め兩氏の Horneaceae, Rhyniaceae, Asteroxylaceae 等の発見せらるゝや、之等果して羊齒植物群の最も原始的なる最初の陸生植生なりや、又は然らずして、より高等なるものより適應變化せしものなるかに就き多少の疑問ありしが、其後 Psilophytales の分布は世界的なる事漸く分明し來りしを以て、是等は羊齒植物群中の最原始的なるものとして考へらるゝに到れり。

然るに今は、地球上最古の陸生植物は泥盆植物にあらずして、Silur (志留利亞) 上部の化石植物となれり。志留利亞上部の陸生植物は僅に從來、瑞典の Gotland より発見せし *Psilophyton? Hedei* HALLE は Graptolites の一種に過ぎざりしが、今日は北米の志留利亞上部よりは *Hostimella silurica* GOLDRING. が発見され、Australia Victoria の Walhalla series bed も志留利亞上部の由にて *Hostimella* sp. *Zosterophyllum australianum* LANG & COCKS. *Sporogonites Chapmani* LANG & COCKS. *Sporogonites minor* LANG & COCKS. 等の化石 Psilophytales を発見せり。

されば地球上最古の陸生植物の探究は又 Silur 上部へ移らんとするが、之より先き是等 Silur 上部となす地層が果して然るや否やを検討するを必要となす。

油麻藤は九州に産す

小 泉 源 一

肥後國鹿本郡内田村^{アイラ}大字相良に天台宗の相良寺あり、吾平山と稱し由緒遠き創立なり、相良寺へ通ずる坂路を走落と稱し、小谷を隔て、向側に、傳説を以て有名な飛^{トビカヅラ}蔓あり。

昔源平時代、緒方三郎なるもの平家の殘黨を相良寺に焼打せしことあり、其時相良寺の御本尊千手觀音は火難を逃れて、此飛蔓へ飛移り避難されしため此名ありと云ふ、一説に又緒方三郎は焼打して退却しつゝ、走落に來かゝるや飛蔓の蔓が飛び來

りて三郎の乗れる馬の脚へ絡みつき、馬諸共に倒れし所を平家の殘黨に首級を擧げられしを以て飛蔓の名ありと云ふ、故に相良寺の千手觀音は今以て緒方三郎の首級を御手よりたれさけて居られ、緒方の姓ある者は一さい參拜せずと云ふ。



Fig. 1.

相良の飛蔓開花の狀 (小泉寫眞)
(*Mucuna sempervirens* HEMSL.)

地方人によれば飛蔓は花を生ずる事極めて稀なる由にて之を優曇華の花に比せり、地方人の話によれば去る明治二十七八年日清戦争の當時開花し、三十七八年の日露戦争當時にも咲き、而今回亦日支事件に際し一昨年以來開花せりと云ふ。故に地方人は何か國家に凶變ある時は先之が前兆として必開花すと稱し此優曇華の花を見物せんため遠近より人の市をなすと云ふ。

昨年の開花は僅少なりしが本年五月の開花は多數なる旨現相良寺住職千田晃澄氏より通知ありしかば五月十五日に相良に至りしに花は當に満開の光景を呈せり、一昨年は見物人の各は必一花を携へかへり優曇華の花を珍とせしが、本年は千田法印の充分なる保護の爲めに一花も持去る人なく、頗る美觀を呈せり。

此飛蔓と稱する植物は、荳科のクズモダマ屬 (*Mucuna*) の一種にして、中部支那にては、油麻藤、牛馬藤 (Niu-ma-teng) 又は棉麻藤 (Mien-ma-teng) と稱し、湖北省四川省地方の楊子江沿岸の斷崖に普通なるものなり、即ち支那中部植物要素の一にして *Mucuna sempervirens* HEMSL. (= *M. japonica* NAKAI) なるものなり、由來中部支那要素にして僅に九州地方に點在して珍稀とせらるゝもの亦少からず、本種の如きも其一なりと信ず。

或人は往昔相良寺が盛大にして九十坊もありし時代は今の飛蔓のある地點も寺領の内にして、昔支那に行きし僧侶の携へかへりて此に植栽せしものなるべしと云ふも寺に其記録なし。

花は大形にして長さ二寸三分より二寸六分もあり、暗紫色を呈し基部は淡くして白くなる、一種の臭氣を發す、大なる總狀花序を成して蔓莖の古き部分より垂下し、或者は根部地上數寸の莖の表面より咲く、所謂花は皆 Cauliflower にして暖地の産なるを示せり。

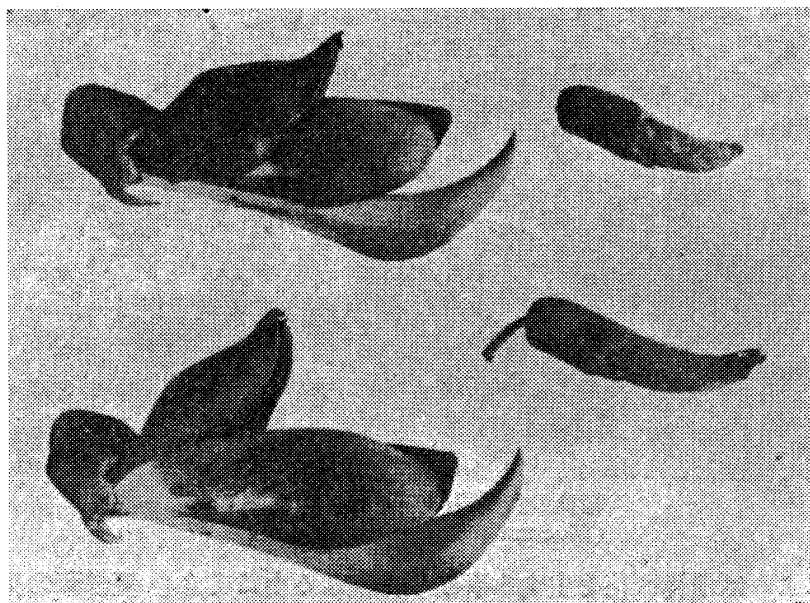


Fig. 2.

Mucuna sempervirens HEMSL.

飛蔓の花 (小泉寫眞)

昭和七年五月十五日

未だ果實を見ざれども其他の外部形態に於ては支那の油麻藤と異なる點なし、唯九州産のものは萼の上唇が僅に二裂するものとせざるものとあるのみなり、故に和名亦油麻藤と稱して可なり、速に天然記念物に指定すべきものなり。

終に相良寺住職千田晃澄氏に大なる感謝の意を表す。

日本生物區系地理學上より見たる吐噶喇水道

小 泉 源 一

予は大正十年九月の屋久島旅行及び大正十二年四月より八月に至る琉球諸島の植物旅行の結果、昭和三年の理學界八月號と鹿兒島縣廳出版の奄美大島及其附近よりの新種植物と題するものに於て、次の歐文の如く、屋久種子島と奄美大島との間の廣大なる吐噶喇水道は、日本群島植物區系地理學上、琉球臺灣の區系と固有日本群島區系との境界としたき事を提議したりしが、此水道は同く動物地理學上でも渡瀨線と稱し有名なるものである。